

# 国内利用ルート確保急ぐ

## アジア諸国の受け皿探す

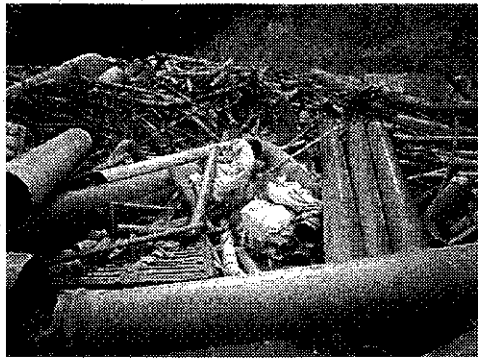
### 廃プラ利用者の視点

日本から中国への廃プラ輸出が急に止まったことで、日本国内で発生している廃プラは多様な動きを見せてきた。廃プラを再生原料に加工する日本の事業者は、日本国内利用のルート確保を急いでいる。中国以外のアジア諸国の受け皿を探究している業者もある。急激な変化に対応しようとする事業者の動きを追った。

### ヤード業者は買い集め

日本からインドに再生資源を輸出する商社

の役員は「廃PETはいつでも受ける体制にある。インドは中国と違い、国内にマーケットがある。特に、繊維



廃び管の利用先は韓国・台湾が多い

原料になるような再生資源を求めている」と語り、中国との違いを強調した。中国の現地に広大な

ヤードを保持する事業者は、厳しい状況下でも廃プラの買い取りを進めている。広大なヤードにストックして値

が上がった時に吐き出す作戦だ。日本で大きなヤードを持つ事業者も同様の方法を採用している。ヤードが満杯

になり、溢れて困惑する日本の事業者から通常の価格より1トン当たり20円ほど安く買い集めているという。

塩ビ管のフレイクの利用先は、台湾と韓国が強いこともあり、変化なく流通しているようだが、台湾から中国に流れていた分は輸出が止まった。韓国に輸出している日本の再生事業者は「変化がない。確実に出している」と言っているが、韓国の為替が1カ月で5割ほど下がったこともあり、韓国の業者は「日本からの流れが悪くなった」と嘆く。

日本国内の再生品ユーザーは、買い控えている事業者も多いが、現在高く買い取っ

てくれる事業者もある。国内で増量材などとして利用している業者は、品目によって違いはあるが、バーシン原料の4割くらいの価格で買い取っているようだ。